

8. 【水域：増殖場】 漁港整備により消失する藻場の代替形成場所としての活用：富来漁港（石川県志賀町）

概要

- 富来漁港では、荒天時の入港困難や係留施設の不足を解消させる施設整備による藻場の消失が課題。
- 地元関係者や専門家等による検討会を立ち上げ、消失する藻場を代替する藻場造成機能付きの構造の防波堤を整備。
- 整備後、約3年間で平均被度60%程度の藻場が形成され、さらに拡大傾向にある。



背景

- 避難港の機能を有する漁港として第4種漁港に位置づけられているが、港口の静穏度が悪く、荒天時の入港が困難で、かつ係留施設も不足していた。
- そこで、防波堤の新設により港口の静穏度を高めるとともに、係留施設を新設し、避難港としての機能の拡充を図ることとなった。
- しかし、防波堤、係留施設の建設を行った場合、14,500m³の藻場が消失することが試算された。

有効活用の内容

- 防波堤の建設により消失する藻場を代替するため、防波堤の構造を潜堤付き幅広捨石マウンド型とし、魚介類の産卵場などとして有用な藻場の形成を図った
- 地元漁業関係者や水産の専門家などを集めた「富来漁港自然調和型漁港づくり検討会」を設置し、現地事前調査、水理模型実験などによる断面構造の検討を行った。

活用した漁港施設	水域
実施時期	平成9年～平成13年
活用した事業	水産基盤整備事業（自然調和型漁港づくり推進事業）
実施した手続き	特になし

効果

- 整備が完成した箇所は、約3年で被度60%程度で藻場が形成され、さらに拡大傾向にある。
- その後、平成27年5月の水産庁調査においても藻場が維持拡大していることが確認された。



富来漁港



<参考文献>

- ・石川県富来漁港における自然調和型防波堤の海藻の遷移特性（第2報）（平成13年度日本水産工学会学術講演会）
- ・富来漁港修築事業（21世紀の「人と建設技術」賞、月刊建設01-8）